

支社の社員が点検？ しかも、現場の管理者は知らなかった！！

1月30日、仕業検査1本目に支社の社員が急に屋根上作業の点検に入ってきました。しかし、この点検は途中から始まり、途中で終わるといい加減なものでした。

しかも、検査担当者や現場の助役でさえも事前に全く知らされていなかったのです。私たちは、このような行動に全く納得がいきません。

一度も仕業検査の経験がない支社の社員が、何の点検に入るのでしょうか？誰の命令で、どんな点検をし、どんな報告をするのでしょうか？

上司でもないのに、どんな権限で屋根上の点検をおこなうのでしょうか？まさに越権行為ではないでしょうか？！

仕業の標準化はチェックのため？！！

仕業検査車両所では、一度も仕業の経験のない支社の社員や仕事のことを聞いても「知らない」という助役がチェック表を片手に毎日のように仕業の点検に入ってきます。ただ、検査の順番や歓呼をチェックしているだけなのです。仕業検査とはこんな簡単なものなのでしょうか？

仕業検査は判断業務です。車両の良、不良を判断し、的確な修繕を指示することが最も大事です。しかし、管理者の点検ではこのことに関する指導・指摘は全くありません。

点検は社員管理やボーナスカットの道具？！

会社はボーナスカットの苦情処理会議の内容でも明らかのように、誰にでもある事柄を理由に特定の社員に対し、ボーナスカットをしてきました。点検はまさにこの材料集めでしかありません。点検中、仕事に対しての指示・指摘がないのはこのことを会社自ら証明しています。

今回、現場の助役だけではなく、支社の社員も点検に入ることは社員管理の強化であり、まさに監視労働です。

私たちは社員管理、監視労働に反対し、働きやすい職場にするために闘っていきます。職場で働くすべての社員の皆さん、おかしいことはおかしいと現場で声を出していきましょう！！